

解答

問1 ひとつの面では「しっばい」でも、別の見方をすれば、今まで知らなかったことや、新しい考え方に会え、今後には生かすことができるから。

問2 日本のカタカナ英語の「ゼロ」を本物の発音だと思い込んでいたので、「ゼロ」がアメリカではまったく通じなかったこと。

問3 自分たち日本人もアメリカで「おかしい」と思うことがあっても、寛容になって、こういうものがあってもいいんじゃないかと許容するべきだということ。

問4 自分の固定した価値観や、せまい思考のわくを外し、いろいろな見方、考え方を受け入れて寛容な人間になること。

問1 いくら娘だといっても、父親の友達に対して失礼な物言いなので、少し腹が立ち、注意するべきだと思ったから。

問2 もどかしく、いらいらする。

問3 しっかりとした自分の考えをもった、やや頑固で、柔軟性のない生真面目な性格。

問4 弟の乱暴な行動をおさめるには、「お母さんが悲しむ」と言って亡くなった母のことを思わせることがいちばん有効だと知っているので、その効果を高めるために辛く悲しい気持ちを表すのにふさわしい声にしようと思っているから。

問1 本の菜のところをあげれば、すぐ読みたいところが読めるように、森の中の檜の木を思えば、引越したあの子との楽しい思い出がいつでもよみがえるということ。

問2 (1) 本を開いたときの、真ん中に「菜」がはさんであるようすを想像させるという特徴。

(2) 菜によって、いつでも好きなページを開けるように、思い出をしっかりと心に刻んでおけば離れていても、いつでも楽しかった思い出をたどって元気になれるということ。